

## 小学校入学に向けて

横浜市東部地域療育センター  
ソーシャルワーカー 荒木 夏彦

# 就学について考えるタイミング

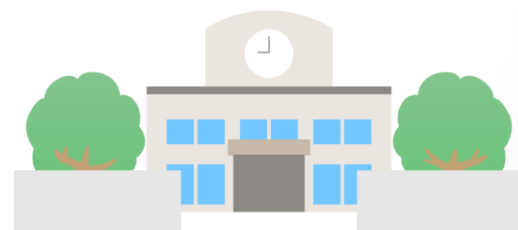
年中  
(4歳児)

年長  
(5歳児)

小学校

\* 就学説明会

就学相談



教育相談



[>>> 2024年度療育講座のご案内 <<<](#)

[「年長さんのお子さんのいる親御さん限定」2025年4月入学の就学相談について <<<](#)

ご紹介



横浜市東部地域療育センターの施設概要をご紹介します。

[詳しくはこちら >](#)

ご相談をお考えの方へ



横浜市東部地域療育センターでは発達に関するご相談をお受けしています。

[詳しくはこちら >](#)

ご利用の流れ



具体的なご利用の流れをご案内いたします。

[詳しくはこちら >](#)

はじめての利用の時の  
問診票はこちらです



はじめての利用の時の問診票はこちら



診断書記入のための  
問診票について

診断書記入のための問診票について

**横浜市療育センター  
就学説明会動画配信**

横浜市療育センター 就学説明会動画配信



社会福祉法人  
青い鳥  
約1年前

第6回発達障害者支援  
ーラムの参加申込は  
27日（月）までとな  
おります。  
たくさんのお申込み  
ただいており、参加  
枠も残りわずかな  
いますので、ご興味  
る方はお早めにお申  
ください！

<https://www.facebook.com/aoitorikanagawa/post/85828768205640>

6回

発達障害について

みんなのメンタルヘルス

日本発達障害ネットワーク

お問い合わせは  
お気軽にご相談・お問い合わせ

## 動画資料 (YouTube)

1. 学びの場について URL : <a href="https://youtu.be/xf1dyfZlaBQ">https://youtu.be/xf1dyfZlaBQ</a>	
2. 就学相談について URL : <a href="https://youtu.be/lgO6GpzIrLg">https://youtu.be/lgO6GpzIrLg</a>	
3. 就学の流れ URL : <a href="https://youtu.be/3RaeY2SMuDg">https://youtu.be/3RaeY2SMuDg</a>	
4. 補足 URL : <a href="https://youtu.be/7Tlc4E-ILj8">https://youtu.be/7Tlc4E-ILj8</a>	
5. 学びの場について(肢体不自由児向け)	

## 資料

- [就学説明会資料\(PDF\)](#) 約 1.2 MB
- [就学説明会資料\(肢体不自由児向け\)\(PDF\)](#) 約 1.3 MB
- [就学説明会動画QRコード\(PDF\)](#) 約 0.07 MB
- [申込書記入例の補足\(PDF\)](#) 約 0.8 MB
- [申込書\(PDF\)](#) 約 1.4 MB

※動画及び資料の内容に関するお問い合わせ先

横浜市特別支援教育総合センター(TEL:045-336-6020)

---

電話・メールでのお問い合わせはこちら 

---



# 療育センターの支援体制について

## 地域支援室

地域の関係機関を支援しています。

学校支援事業（※）： 学校支援担当（SW・心理）による  
コンサルテーションや教職員研修を実施



福祉相談室と協働して幼稚園・保育所の巡回訪問も  
行っています。

## 福祉相談室

各地区担当ソーシャルワーカーが小6までの  
お子さんに関するご相談を担当しています。

センターにおける相談窓口としてお子さんに関するご相談を  
お受けしています。必要に応じて関係機関との連携も行います。

療育センターのご利用は小学校6年生までです。  
必要な方には、中学生以降の相談先なども

ご紹介いたします。



# センターの小学校との関わり

## ★学校支援事業（※）・・・**学校からの申込み**

主に一般の学級で指導や対応に困っている先生方に対して、児童等の理解と支援について助言・提案をしています。

申込みを受けた学校を訪問し、教職員の方々へコンサルテーションを実施しています。

また、教職員研修を実施するなど各学校の状況に応じた支援を行っています。

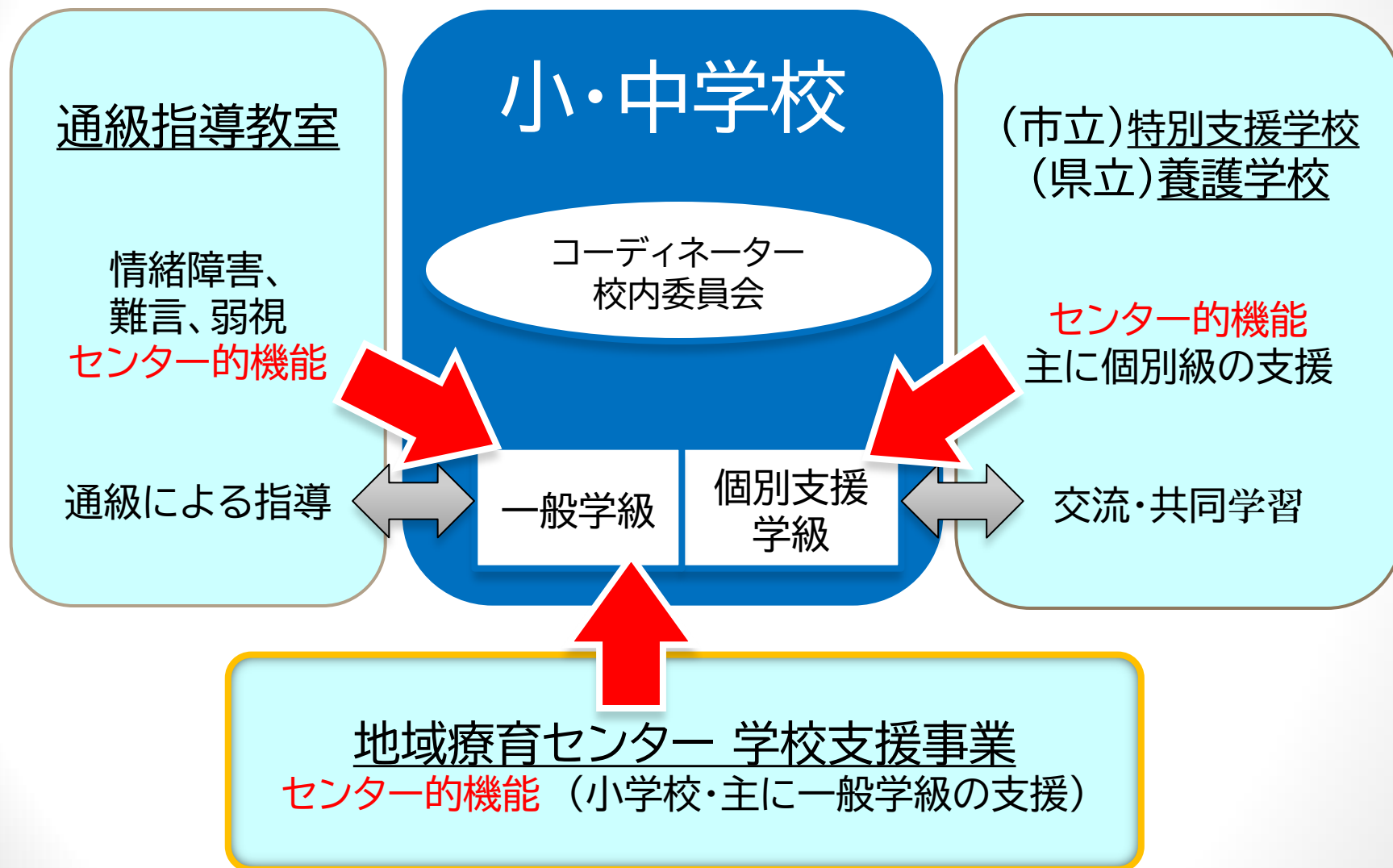
※ 学校支援事業は、**各小学校の特別支援教育全体への支援を目的**としており、**特定児童への個別の相談は行っていません**。



## ★学齢児支援・・・**保護者からのご相談**

学校生活の困りごとともご相談をお受けしています。お子さんのつまづきがどこにあるのか、学齢期の対応と支援について保護者の方とともに考えていきます。必要があれば学校と連携をとることも可能です。まずは、診療等でご相談ください。

# 横浜型センター的機能





# 小学校について

学校にはいろいろな先生がいます。

＊校長先生・副校長先生



＊児童支援専任の先生

＊特別支援教育コーディネーター



＊担任（一般学級・個別支援学級）

＊専科の先生

＊養護教諭の先生

＊技術員さん



# 学級の種類



## 1) 地域の小学校

- ① 一般学級（＋特別支援教室）
- ② 一般学級　＋通級指導教室
- ③ 個別支援学級

## 2) 特別支援学校

# 横浜市内では…

(国) 通常学級 = (横浜市) 一般学級

(国) 特別支援学級 = (横浜市) 個別支援学級

\*「**特別支援教室**」は、  
在籍学級(一般学級・個別支援学級)を離れて学習するためのスペース

# 特別支援教室について

児童生徒が、在籍する学級（一般学級、個別支援学級）を離れて、特別の場で学習するためのスペース（「第3期横浜市教育振興計画」より）

## ○ 主な活用

「学年相応の学習のための丁寧な導入（下学年の復習等）」

「スモールステップによる基礎の定着」

「在籍学級での学習を安定・充実させるためのベースづくり」など

各学校特別支援教室の運用方法が異なりますので、校長との面談時に確認をしてください。利用については、学校との相談となります。

- ・一般学級
- ・個別支援学級
- ・通級指導教室
- ・特別支援学校

の順にみていきます。



# ■ 一般学級

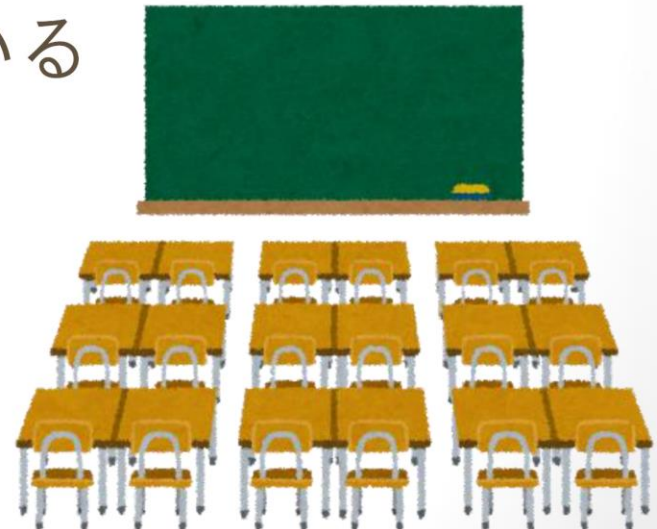
# 一般学級

基本は学区の学校へ就学

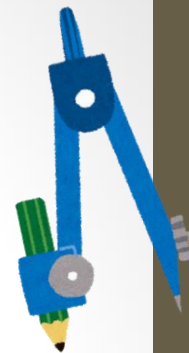
1クラスの人数が多い（35人～40人）

学習指導要領に基づく指導  
学年ごとに系統立てられている

学習の積み重なり  
授業のスピードが早い



# 一般学級における特別支援教育



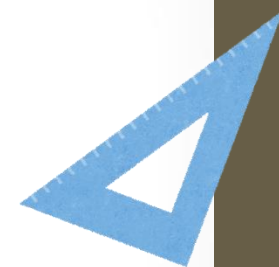
## ○ 誰にでもわかりやすい授業づくり

スタートカリキュラム 安心・成長・自立へ

## ○ 療育センター等との連携

全校配置

- ・ 児童支援専任教諭
- ・ 特別支援教育コーディネーター



## ○ 学習のつまずきに

T・T（チームティーチング）の活用  
特別支援教室（とりだし・少人数指導）

# ■ 個別支援学級



# 個別支援学級

基本は学区の個別支援級へ

特別な教育課程を編成できる  
(特別支援学校の教育課程を参考)

個別の指導計画が基本

＊保護者とともに「**個別の教育支援計画**」を作成。

原則 1 クラス 8 名に担任 1 名  
(情緒級・知的級)

※一般学級との交流・逆交流は  
学校事情や  
お子さんの状態によります。





# 個別支援学級（特別支援学級）

- ◆学級種・・・① 知的障害 ② 自閉症・情緒障害 ③ 弱視
- ◆学級規模・・・児童8人に対し、教員1人
- ◆教育課程・・・一般学級、特別支援学校の教育課程を参考に、  
お子さんの実態に合わせて特別な教育課程を編成
- ◆お子さんの実態等に応じた指導計画の作成  
「個別の教育支援計画」保護者とともに個別に作成  
「個別の指導計画」
- ◆指導形態・・・基本的に学級ごと、合同やグループで活動することもある
- ◆指導の工夫等  
・興味関心に応じて ・教材の工夫 ・体験的な学習 ・日常生活動作の学習
- ◆交流及び共同学習  
児童の実態に応じて計画的に一般学級と実施

# ■ 通級指導教室

# 通級指導教室 一般学級在籍児が対象

情緒通級・言語通級・難聴通級・弱視通級

障害に起因している  
困難さを改善するための指導

週1回～月1回程度の指導  
保護者の付き添いが必要

※ 学習の補完の場ではない



# 通級指導教室

## <対象>

① 一般学級の学習におおむね参加可能なお子さん

(知的発達の遅れがない)

② 弱視、難聴、言語障害、情緒障害、自閉症、LD・ADHD  
など特別な支援、指導を必要とするお子さんのための  
教室

(難聴、口蓋裂の場合は、個別支援学級在籍のお子さんも対象)

## <目的>

一般学級で教科指導を受けることを基本とし、一部の時間だけ通級指導教室に通い、障害などに基づく学習上または生活上の困難の改善・克服

# 通級指導教室

## <指導回数、指導形態、指導内容>

	情緒障害 (LD・ADHD 含)	弱視、難聴、言語障害
指導回数	お子さんの状態や目標等によって異なります。 週1回から月1回程度	
指導形態	グループ指導が基本	個別指導が基本
指導内容 「自立活動」を 参考	情緒の安定、対人関係、 コミュニケーションスキル、 認知特性に応じた学習 等	視覚補助具の活用 補聴器の装用 言語・発音に関すること 等

◎小学校は保護者付き添いが必要（保護者面談、保護者支援 等）

◎在籍校内に設置されている通級に通う場合も付き添いが必要



# 通級指導教室設置校

**弱視** 【特別支援学校】 盲特別支援学校（神奈川小学校分教室）

## 難聴、言語

【小学校】

藤が丘（言語）

幸ヶ谷、東、  
洋光台第二

【特別支援学校】

ろう特別支援

【小学校】

市ヶ尾、綱島、平沼、  
左近山、戸塚、八景、  
西が岡（言語）

【中学校】

鴨志田、左近山（言語）  
共進、洋光台第一（言語）

## 情緒

【小学校】

荏田東第一  
十日市場

寺尾

小坪

仏向

※在籍する学校によって通級指導を受ける学校は指定されます。

11

# ■ 特別支援学校

(市立)特別支援学校  
(県立)支援学校

# 特別支援学校

視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱

入学については細かい地域設定あり

個別の教育支援計画の作成

体験的な学習や日常生活習慣の学習

原則 1 クラス 6 名に担任 1 名

☆入学は狭き門？公立も・・・

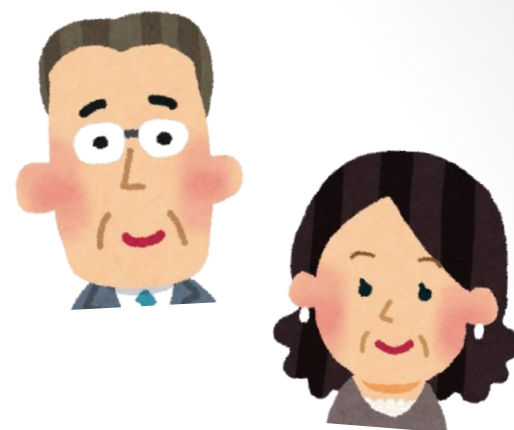
私学＝聖坂養護

国立＝国大附属特別支援学校



# ■ 就学に向けて

# 就学までの流れ



☆学区の校長先生への相談

学校の中で特別な支援を

希望する場合は相談をおすすめします。

特に！個別支援学級を

希望している場合は必ず相談を！

☆その他



# 特別支援教育総合センターの利用について

特別支援学校（養護学校）

悩んでいる場合も  
ご利用ください！

個別支援学級・通級指導教室 を

希望する場合は必ず申込む必要があります。

※進路の判定機関ですが、  
最終決定は保護者の方が行います。

---

入学してからの利用は学校を通しての  
申込みになります。  
中学校進学の際に利用される方もいます。

# 就学相談の内容について

- 通級指導教室の利用
- 個別支援学級への入級
- 特別支援学校への就学

希望の  
場合



特総センターでの

「就学相談」が必須

※相談の結果、特別な  
学びの場での教育  
の必要性が認めら  
れた場合のみ利用  
等が可能

## 就学後

- 一般学級から個別支援学級へ入級、通級指導教室の利用希望  
→相談と判断が必要
- 個別支援学級から一般学級へ移る場合  
→相談は不要。学校と保護者・本人との合意形成のみで可能

# 特別支援教育総合センター

外  
観



略称  
特総センター

心  
理  
検  
査  
室



プ  
レ  
イ  
ル  
ー  
ム



- ★ 相鉄線 各駅停車のみ停車する和田町駅より徒歩10分程度です(坂道を上ります)。
- ★ 相談者は、駐車場を利用することもできます。
- ★ 横浜市のホームページ(横浜市 特別支援教育総合センターで検索)に上記と同じ写真がアップされています。

20





# お子さんの集団での姿を知る

お子さんの集団での姿を客観的に知る



幼稚園・保育園の先生

療育センター（クラス担任、巡回訪問、診療）

どのように成長してきているか…

どのような配慮・サポートを受けているか…



# 大切にしたいこと ①

- 先取り勉強で学力が貯金できる??  
焦らないことが大切。  
学習の形を作りすぎない。
- 着席すること、書くことの基礎となるもの  
幼児期に体をいっぱい使う。  
手のひらを使う・・・  
力や動きの調整が必要な遊びをする・・・



## 大切にしたいこと ②

- 本人にあう過ごし方を考える  
集団を求めすぎない
- 生活リズムを整える  
早寝・早起きで基本的生活習慣を
- 自尊心をはぐくむ  
自己肯定感や自己有用感は、高等教育まで続く  
テーマ。 幼児期からの積み重ねが就労、成人期  
までつながっている。



# 地域の情報について

参考にはなるが、情報の一つとして捉える

- ・学区は基本的に変わらない
- ・学校も先生も児童も変わる



- ・情報過多、風評には  
    惑わされないことが大切

＊学校に対してネガティブな印象を与えない。

# 就学後も1年ごとの振返りが大事

年長  
(5歳児)

小学校

中学校



## 就学時の判断を固定的に考えない。

- \* 学習内容、お友達関係など学年があがると複雑に変化していく。
- \* 毎年、担任としっかりお子さんについて共有をする姿勢が必要。

「就学前に相談したんだから、校内で引継がれて当然」という考え方は、結果的にお子さんのためにはならない場合も。